

それが、まず前半にある主を呼ぶと聞いてくれるということですが、似ていますが、叫ぶと聞いてくださるのが17節にあります。叫ぶと聞いてくれるというのが、6817と8085です。「呼ぶと聞く」と「叫ぶと聞く」はそんなに違うほどはっきりと分かれるわけではないと思われかもしれませんが、この中で直接探したときに出てくるところを見ると、民数記20章16節はエジプトから民が連れ出されるという歴史をもう一度を思い出しているところですが、「私たちが主に叫ぶと、主は私たちの声を聞いて、ひとりの御使いを遣わし、私たちをエジプトから連れ出されました。」と言います。

この主に向かって叫ぶと…というのが、エジプトから連れ出される話のスタートです。エジプトから連れ出されるスタートは、出エジプト記2章23節。「それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエル人は労役にうめき、わめいた。彼らの労役の叫びは神に届いた。」というところから、いよいよ救いのストーリーが始まります。神に向かって叫ぶということがこの民数記20章でで言われています。

申命記26章7節も同じ出来事を話しています。26章6節「エジプト人は、私たちを虐待し、苦しめ、私たちに過酷な労働を課しました。私たちが、私たちの父祖の神、主に叫びますと、主は私たちの声を聞き、私たちの窮状と労苦と圧迫をご覧になりました。」そして、連れ出してくださいましたというこの二つの箇所が主に叫ぶと神様は聞いてくれたという箇所です。

ネヘミヤ9章27節、バビロンから戻ったあと。ここもエジプトから連れ出してくださいましたということを出して、同じように哀れんでくださいと頼んでいるところですので、「彼らとその苦難の時にあなたに叫び求めると、あなたは天からこれを聞き入れ、あなたの大きいなるあわれみによって、彼らに救う者たちを与え、彼らを敵の手から救ってくださいました。」というこの「あわれみ」がエジプトから連れ出してくださいました。

出エジプトというと、叫んだら聞いてくれるということが大切なきっかけです。祈ったら聞いてくれたということですが、祈るというよりも叫ぶという言い方になっています。

そのことを覚えて、判例法として出エジプト22章のところに、神様が連れ出してくださいましたことを覚えて、この命令を守りなさいという中にこの命令があります。2章21節「在留異国人を苦しめてはならない。しいたげてはならない。あなたがたも、かつてはエジプトの国で、在留異国人であったからである。すべてのやもめ、またはみなしごを悩ませてはならない。もしあなたがたが彼らをひどく悩ませ、彼らがわたしに向かって切に叫ぶなら、わたしは必ず彼らの叫びを聞き入れる。」これは、エジプトで民の叫びを聞いてくれたように、弱い者、貧しい者、やもめ、みなしご、悩む者の頼みを聞きな

さい、あわれみなさいということです。苦しむ者、悩みというそういうことです。貧しい、苦しめられているという悩みから助け出されるという悩みもそのことを連想します。

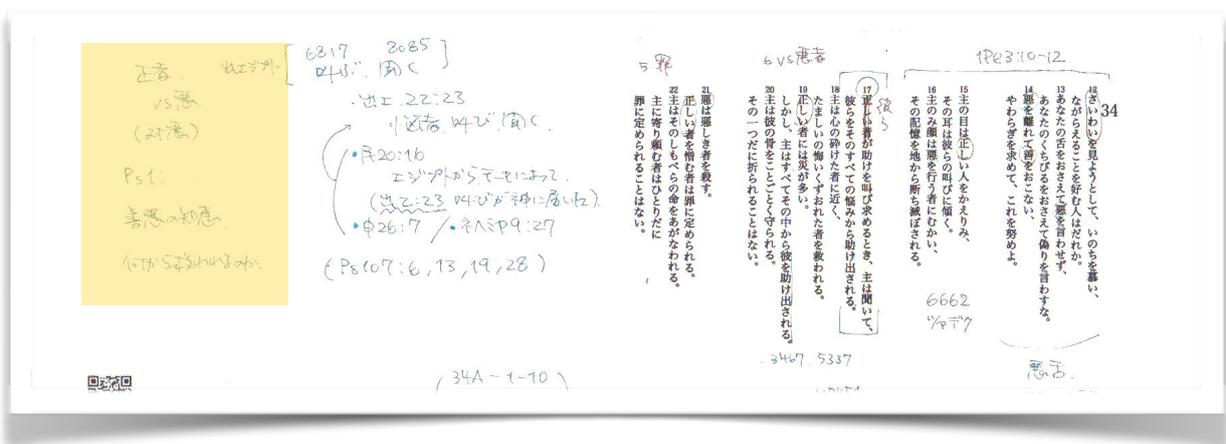
詩篇107篇にも同じエジプトから連れ出してくださったというみ恵みの歴史がずっと記録されて、そこから感謝の祈り、感謝の段落が始まっていきます。(6節)「この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救い出された。」13節「この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救われた。」、19節「この苦しみのときに…」28節「この苦しみのときに…」と4回同じことを言いますが、それは、主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い、その奇しいわざに感謝しなさいという内容自体は主に向かって叫ぶと聞いてもらったということが感謝する土台、理由です。それが、叫ぶと聞く。

前半には入っているのが、どちらかというと神殿の話。後半がエジプトから連れ出された話というように連想すべきではないのか… そこまではっきりとはしませんけれども、そう思います。(12:32)

後半を見ると正しい者と悪者、これはよく見えます。悪者から救われる、罪からも守られるというのが最後に付いています。悪者と戦って、悪者から離される、悪者から救われるというのが、後半に多いです。

前半はというと、主を恐れる、主を恐れる、主を恐れる…ということがあります。神様を恐れるということなのですけど、呼ぶと聞いてくれる相手は誰なのですか、誰を呼べばいいのですかということ、神様を呼んでください、神様から離れない、他の救いを求めない、主を呼び求める、主を恐れている、主の神殿に入りたい…この人は救われます。

じゃあ、何から救われるのか。正しい者は園に入れる、園に戻る。悪者を神様は追い出して、罪を聖めて守ってくれますということで、何から救われるのかというのが後半です。誰が救ってくれるのか、どこから救われるのかというのが後半になっています。

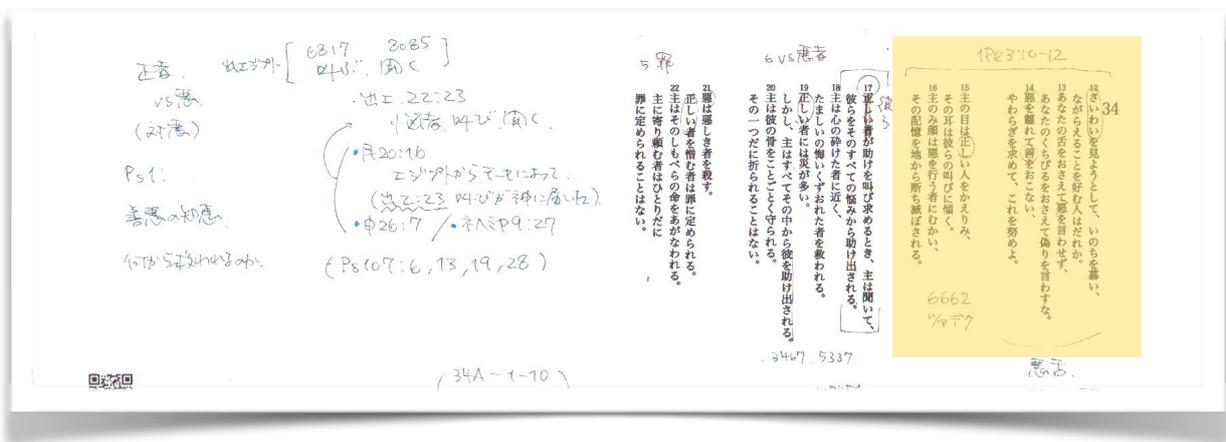


それは、まるで1篇と2篇のようだという事も考えました。善人・悪人の裁きの話、義人・悪人の裁きの話は、1篇に似ています。主を恐れる者に…主を恐れる者というのは、主に信頼している人、国々には信頼していないということで、2篇はそのことを話している。2篇を連想しないといけないのは、8節の後半の「主に寄り頼む者はさいわいである」。

34篇全体はアルファベットの詩篇で、12345がABCDEのようになっています。この詩篇のもう一つの特徴は、「幸いなるかな、主に寄り頼む人は」です。幸いなるかなというのが、32篇から41篇までのまとまりの特徴です。

それは1篇を連想する「幸いなものよ」ですけれど、2篇も「幸いなものよ」です。2篇は12節で、「幸いなものよ、主により頼む人は」で終わっていますので、主により頼んで主に信頼しているというのが、前半の2篇的なもの、後半は1篇的なものというようにも分けられるのかなと思います。

37篇も34篇と並行しているまだ一連のところですけど、37篇の最後が、「彼らを悪者から救われる、彼らが主に身を避けるからだ」という言い方で終わっています。37篇は「幸いな者」という言い方はありませんけれど、山上の説教の「幸いな者」に非常に似ているというものですから、その終わりが「主に身を避けるからだ」というのは、興味深いところです。1篇は「幸いなものよ」で始まって、2篇は「幸いなことよ、すべて身を避ける人は」で終わっています。「恐れつつ主に仕えよ、おののきつつ喜べ。」とありますように、この（詩篇34篇の）前半が2篇的、後半が1篇的ということです。



第一ペテロに直接引用されています。その箇所は12節から16節です。それと、直接の引用には見えないかもしれませんが、2章にも引用されています。第一ペテロは、苦しみの時に救われるというテーマです。

第一ペテロ2章3節「あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。」と「主の恵みふかきことを味わい知れ（詩篇34:8）」この恵みふかきことは、トブ (TOV) で、善、良い (の意味)。主は良き方であることを味わい知れ。「いつくしみ深い (第一ペテロ2:3)」も良い方という訳ができますから、既に主が良い方であるということ味わっている。これが、引用とは書いていませんけど、引喩です。「主のもとに来なさい (第一ペテロ)」、「子らよ、私のところに来て聞きなさい (詩篇34)」という言い方も、第一ペテロに似ています。

その導入のところで (第一ペテロ2) で、すべての悪意、ごまかし、偽善、ねたみ、すべての悪口を捨てて…この悪口、ラション・ハラアが敵ですというところです。そのラション・ハラアが敵ですというところが (第一ペテロ) 3章10節から12節。「いのちを愛し幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押さえて悪を言わず、…」という12節から16節までの詩篇のところが、第一ペテロ3章10節から12節までで引用されています。そして、その引用に続いて、「いや、たとい義の為に苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです」と、おっ！「幸いなものよ」だということが出てきました。もう一

度4章14節にも、「幸いなものよ、キリストの名のために非難をうけるなら…」ということが出てきます。

この2回が第一ペテロに出ますけれど、山上の説教の「さいわいなものよ (マタイ5章)」というイエス様の教えを引用しています。5章から始まる山上の説教のここ(5:8)が37篇です。その最後のところ(5:10-12)、「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。私のためにののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜び踊りなさい。天においてあなたがたの報いは大きいからだ。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」そのことをペテロは引用し、34篇で天の御国に入れる人は誰かということ引用して、この34篇からペテロは教えます。

34

1わたしは常に主をほめまつる。そのまははわたしの口に絶えない。2わが魂は主によつて勝る。苦しむ者はこれを聞いて喜びであらう。3わたしと共に主をあがめよ。われらと共に名をほめたえよ。

4わたしが主に求めたとき、主はわたしに答へ、すべての恐れからわたしを助け出された。5主を聖き見て、光を待よ。そうすれば、あなたがたは、恥じて難を承くことはない。

6この苦しむ者は呼ばわつたとき、すべての悩みから救い出され、7主の御名を恐れる者のまわりには、主の御名が聞きこを味わられる。8主に寄り頼む人はさいわいである。

9主の御名よ、主を恐れよ、主を恐れる者にはさしこがないからである。10若しはさしこなくって罪人である。11しかし主を恐る者は悪き御名を欠けることはない。12子らよ、来てわたしに助けを求めよ。あなたがたは救はれる。

13主の御名よ、主を恐れよ、主を恐れる者にはさしこがないからである。14若しはさしこなくって罪人である。15しかし主を恐る者は悪き御名を欠けることはない。16子らよ、来てわたしに助けを求めよ。あなたがたは救はれる。

17軍士の者が助けを求めるとき、主は聞いて、彼らをそのすべての悩みから助け出される。18主は心の砕けた者に近く、たましいの傷いたる者を救われる。19正しい者には災いが多く、しかし、主はすべてその中から彼を助け出される。20主は彼の骨をこころしく守られる。その一つだに折られることはない。

21悪しき者を教す。22正しい者を前む者は罪に定められる。23主はそのしもべらの命がなされる。主に寄り頼む者はひとりに罪に定められることはない。

34

1わたしは常に主をほめまつる。そのまははわたしの口に絶えない。2わが魂は主によつて勝る。苦しむ者はこれを聞いて喜びであらう。3わたしと共に主をあがめよ。われらと共に名をほめたえよ。

4わたしが主に求めたとき、主はわたしに答へ、すべての恐れからわたしを助け出された。5主を聖き見て、光を待よ。そうすれば、あなたがたは、恥じて難を承くことはない。

6この苦しむ者は呼ばわつたとき、すべての悩みから救い出され、7主の御名を恐れる者のまわりには、主の御名が聞きこを味わられる。8主に寄り頼む人はさいわいである。

9主の御名よ、主を恐れよ、主を恐れる者にはさしこがないからである。10若しはさしこなくって罪人である。11しかし主を恐る者は悪き御名を欠けることはない。12子らよ、来てわたしに助けを求めよ。あなたがたは救はれる。

13主の御名よ、主を恐れよ、主を恐れる者にはさしこがないからである。14若しはさしこなくって罪人である。15しかし主を恐る者は悪き御名を欠けることはない。16子らよ、来てわたしに助けを求めよ。あなたがたは救はれる。

17軍士の者が助けを求めるとき、主は聞いて、彼らをそのすべての悩みから助け出される。18主は心の砕けた者に近く、たましいの傷いたる者を救われる。19正しい者には災いが多く、しかし、主はすべてその中から彼を助け出される。20主は彼の骨をこころしく守られる。その一つだに折られることはない。

21悪しき者を教す。22正しい者を前む者は罪に定められる。23主はそのしもべらの命がなされる。主に寄り頼む者はひとりに罪に定められることはない。

34

1わたしは常に主をほめまつる。そのまははわたしの口に絶えない。2わが魂は主によつて勝る。苦しむ者はこれを聞いて喜びであらう。3わたしと共に主をあがめよ。われらと共に名をほめたえよ。

4わたしが主に求めたとき、主はわたしに答へ、すべての恐れからわたしを助け出された。5主を聖き見て、光を待よ。そうすれば、あなたがたは、恥じて難を承くことはない。

6この苦しむ者は呼ばわつたとき、すべての悩みから救い出され、7主の御名を恐れる者のまわりには、主の御名が聞きこを味わられる。8主に寄り頼む人はさいわいである。

9主の御名よ、主を恐れよ、主を恐れる者にはさしこがないからである。10若しはさしこなくって罪人である。11しかし主を恐る者は悪き御名を欠けることはない。12子らよ、来てわたしに助けを求めよ。あなたがたは救はれる。

13主の御名よ、主を恐れよ、主を恐れる者にはさしこがないからである。14若しはさしこなくって罪人である。15しかし主を恐る者は悪き御名を欠けることはない。16子らよ、来てわたしに助けを求めよ。あなたがたは救はれる。

17軍士の者が助けを求めるとき、主は聞いて、彼らをそのすべての悩みから助け出される。18主は心の砕けた者に近く、たましいの傷いたる者を救われる。19正しい者には災いが多く、しかし、主はすべてその中から彼を助け出される。20主は彼の骨をこころしく守られる。その一つだに折られることはない。

21悪しき者を教す。22正しい者を前む者は罪に定められる。23主はそのしもべらの命がなされる。主に寄り頼む者はひとりに罪に定められることはない。

全体は、主の祈りの課題にも並び方として順番になっていると思います。悪者と戦うところ (12-20)。罪の赦し (21-22)。罪の赦しよりも悪者のほうが長いです。パンを与えられるところ、乏しいことがないというパンの話 (9-11)。出だしのところは御名をあがめますということ (1-3)。4から5と6から8のところは、御国と御心の残っているところなのですが、ここは陣を敷いて助けてくれるという、2篇からの引用と同じ、主により頼む者は幸いである、身を避ける者は幸いであるということですので、主が王として私たちを救ってくれる、御国の王として救ってくれるという段落だと見ることができると思いますので、主の祈りの課題が全て入っているということです。

そしてこれは、「良い」ということを教えてくれる善と悪の知恵、主を恐れて善と悪を裁くという意味でエデンの園の話に似ています。32篇はみことばで作って裁くということで、園を作ってその中の大切な教えというのがこの34篇だと思います。